やまと
傳文庫
九編

第五号
へ13
3749
5

門 へ13
號 3749
巻 5

倭文庫 九編

万亭應賀作

香蝶楼豊國画

釋迦八相倭文庫九編之序

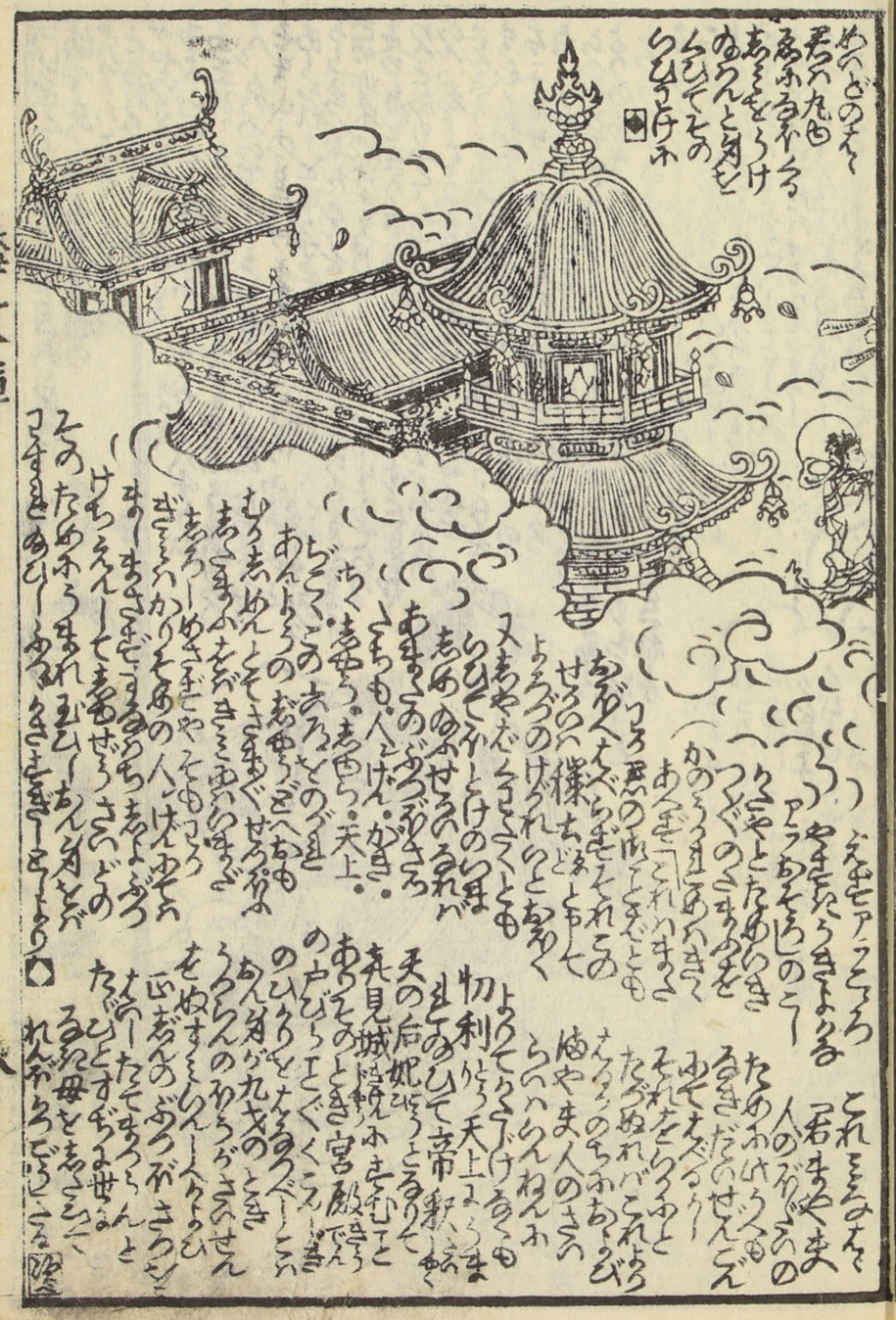
天須彌山の南洲を閻浮提と云ふ日本震旦天竺の比白此中うち分るふ
天竺い其八閻浮提の正中大國ありて王城ありその王八釈迦氏之抑此國
の祖光仁原ふ昔光音天の衆この地ふ遊戯飛行自在を時ふ
味を取食ひて身孕が飛行まると能ず食を思ふ故ふ粳米
生れを食ふ故ふ男女の形合る后の
長さ四寸半朝ふ苅ば夕ふ生ずれば
日を貪欲発て苅ば再生ず侵奪とあり智者と撰て國王ふ定む君
と平等王と云是より二十三世ふ至て善思王轉輪聖王の位を証て
四天下と治む又百一萬五十六王を経て師子頰王の皇子跋祚
まと浄飯大王と稟を今序ふかえて茲ふ日足を識を

弘化五戊申年孟陬吉辰　万亭應賀述

耶輸陀羅姫
悉陀太子
霊夢

普賢菩薩
ゆ見えの人
滝肆の擬君
波安須密ヨヌ女

桑文庫

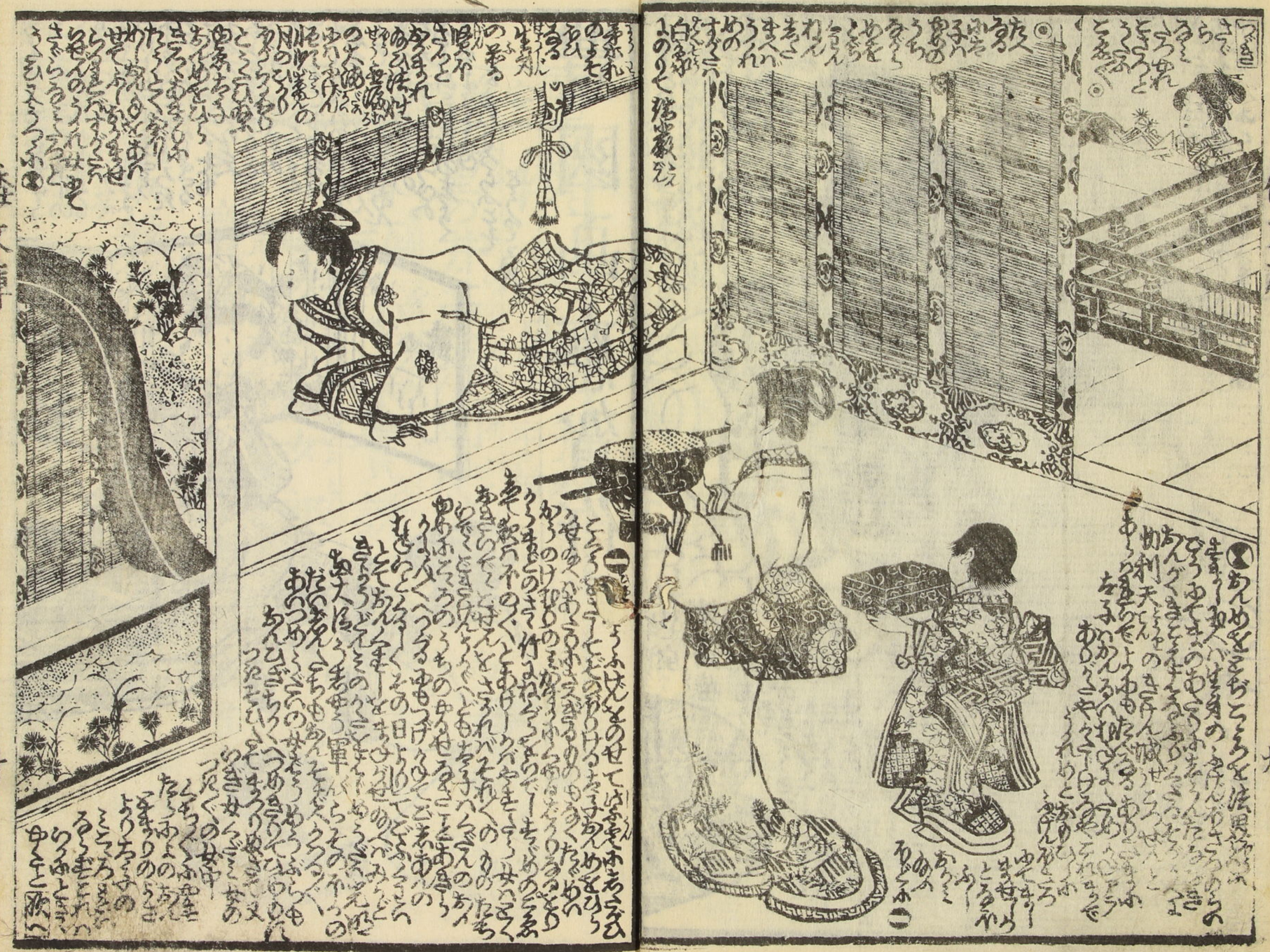


つぎ　くどくのよろこびさのらの
仙やまん人がまむ宮殿の
こりくうハとぐく七宝ろう
とうれのさそ又ものと
ゲやらぞふりけしざこうう
ゆよらのとやけろれかことがお生八十くじん
玉王こう　とうまれのぞ又さまぐふうまれらう
人　うのわいでくるうちろ見せろ玉のたつこうろう
ちまん山のまんげ華ぐふざこうゆらのと
あられーとろうを天上の帝釈天たいしゃくみぐ
うろうんぐだんをゆてうていらるゆえるを多ふ
ん如来ぶいなちろちゃ子のぜん生ぞそらぐ
ちろ月をきりさたてもたてのろたわとこちゅう
えとありふとろぐ　あうこゆくろ又うろらんの
ろへ　ちょうたうようきまえせ　さのせんを
たんさうどもぐぬすくとろろのらいこけを
まぬうれんとかびくぬ城よりけきちゅくの
ちゃうとちうろのろのこがゆをこぐつたろう
ちゅくぐちきうぶごとちゃうのころ　ぬゆゆうち
らへちゅそたんさうらいそまくぬかれ　ゆそちゅちう
ちろのちうがさいせんとくくちゅうさまがもちのぐー
うろうんふさくせーりのうううつらんいさあきれーダ
ちゃ子のいんーいのちらぐーいあん月ふつくへた
ぐゆちろるとあん月がつうしてこせーしろえの
ちゅきいのあるべきやちろい悪信ちゅく
ぐもよありてちゃ好ちゃちゅうみ
うへもるきたのせいちゃんとまう
のろるりされいちをあれちゅう
のゆてさぐふあゆちきどさのどを

◆あぞちゅや
ちゅきけ恒さのこ
孫宝ちん月ふちゅ
ぐるぞこいこのの
ぐうるぞやちゅく
うちゅよちゅゆちゅ

おぞうこと仏ぐの高ぞ年うーぞと
るれらのうとたすけちうゆそ
せしのかくくこのこちうゆそ
又うちゆあひーちきのうしく
ゆのうちとくとーー
ちうすーちふくくちう
ちゅちのの乃ゆ
りりつ
ちらい
ちゅう人
ども人鬼鬼
のちりくさまうぐ
られ言の住ゆと
つだのゆとられちゅ
ぶうのぐうゆちゅそう
ちゅいそうちうゆ
らんとゆちんゆうちうの
とちきちゅちゅちゅうこちう
あうられのてゆぐちゅとよ
せて老ゆちうふちゅ風ゆぐう
のこのーゆのぐーとくーゆうちゅゆちゅのを
さそもそろゆくゆうちゅゆちゅゆちゅけを
かりそゆのゆいちゆくゆちゅうんぐ見
央宅ぐゆちろとちゅゆくちゅうあう

有七宝
池八功徳
水きう
ちんのゆ
ようのぞゆう立へ
ちのちゅくべーかゆうス
ちゅうれゆゆ高せぐう
ちゅどのそのたゆよ
ゆーのうろうスうま
ちうそちうゆく
かるこいろのゆ
のたのとゆふこ
ゆどりて
こちとうちきると
とゆ世どゆ月へ
かりのよのかり
そゆちうこちき
ゆうれどふ
ちでうらの
ちうちこのさま
ゆちゆ夜へ
ひきゆちるうか
ちゆのうちゆ
ちゆうそのゆうろ
ゆうちゆちゆへ
れるゆゆ



豐國画應賀作

安政四年丁巳春新板目録

倭文庫
三十七編 三十八編 万亭應賀作
三十九編 四十編 一陽齋豐國画

重の井菱染別小紋 七編 為永春水作 八編 同

昔語小栗實説 二編 松亭金水作 三編 同

花山吹百人女郎 初編 柳亭種彦作 二編 同

大寶御江戸圖 極上摺 奉書六枚半續

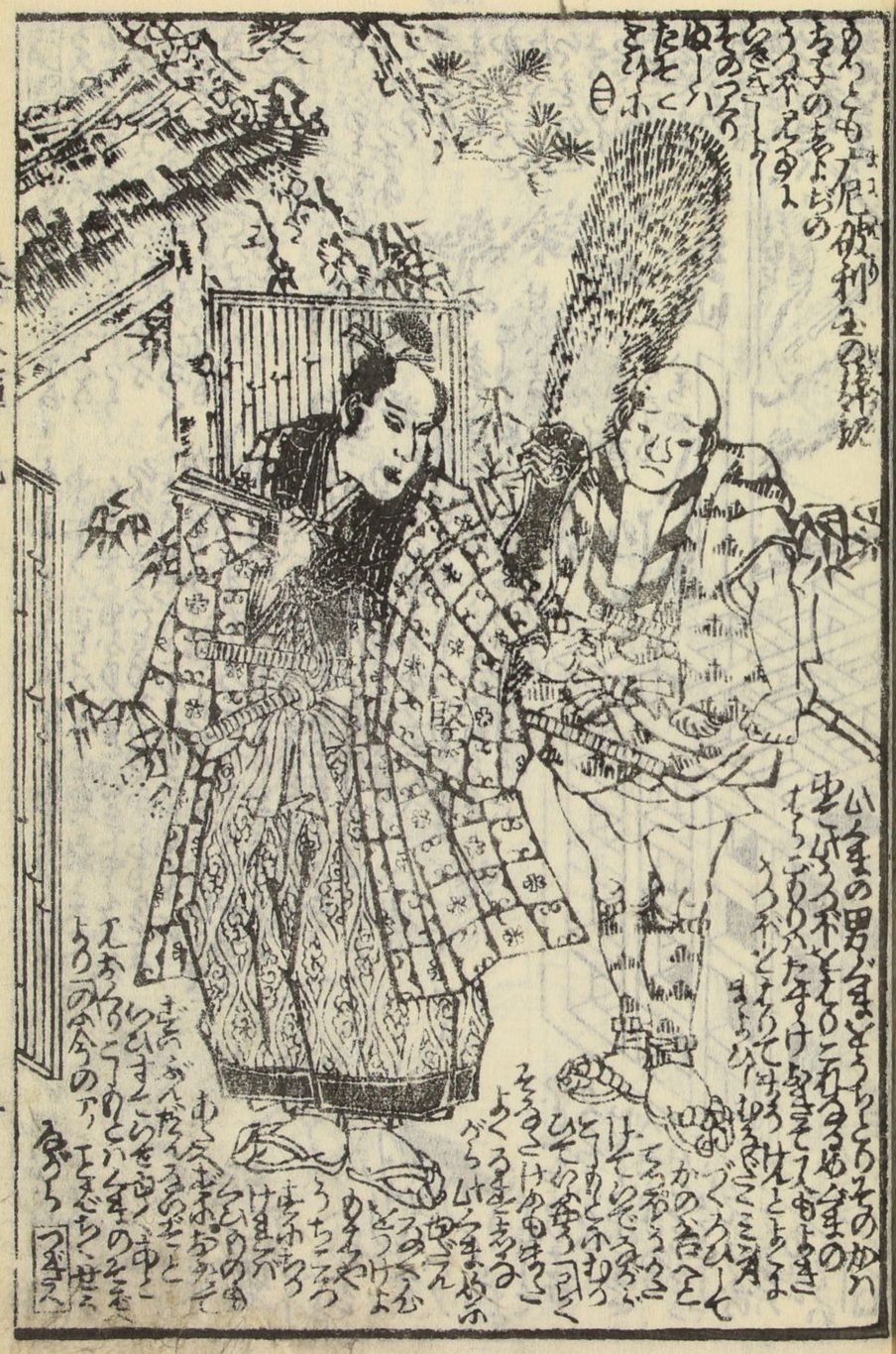
常磐津懐中本 初編 二編 三編 四編

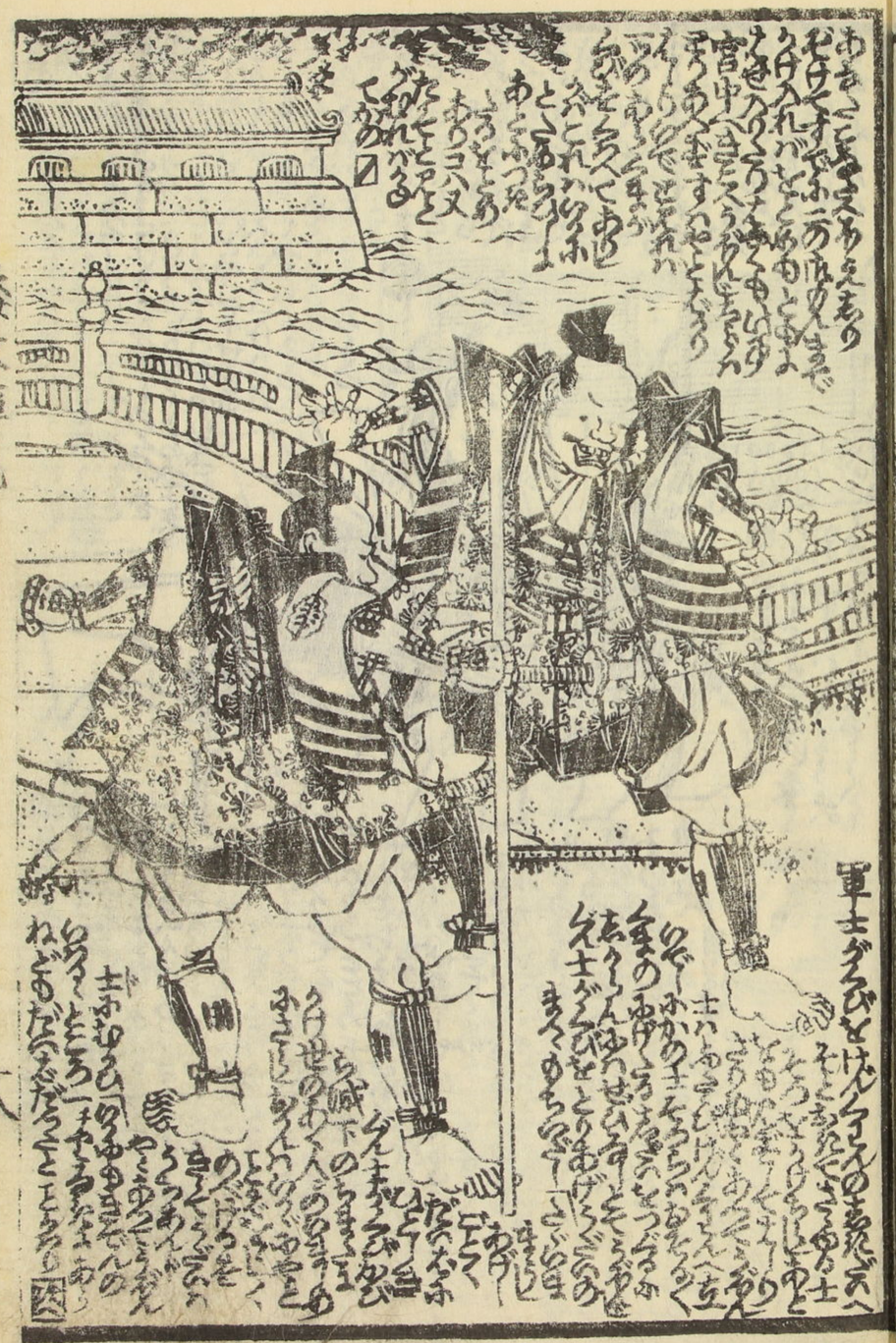
〈重 繪艸紙本類 人形町 上州屋重藏

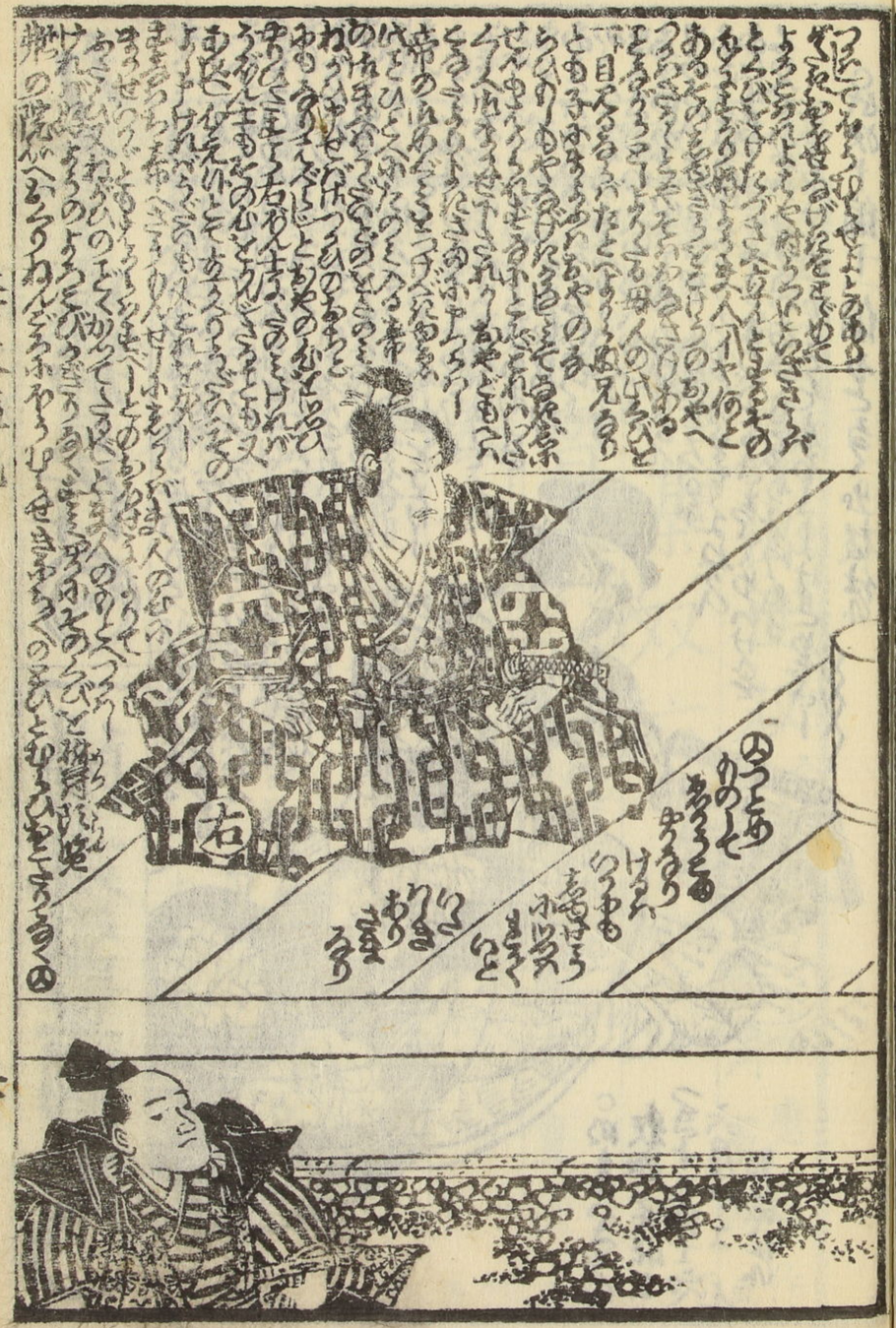
万亭應賀作
一陽齋豊國画

上方
ちん

香蝶樓豐國画
万亭應賀作
在落雲
ぬんぢ
九編







万亭應賀作 一陽齋豊國画

○此手ハ今ノ歌迦天狗ニ
つき十二編十六
六月中ニ
出板仕ル

○次十編十一編ヲとるく出板仕ル

安政四年丁巳春新板目録

傾文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

春の手遊　将棋双六　同作　歌川貞房画

男女振合　役替双六（松竹梅の花おりつきあり）　同作　一陽齋豊國画

武家奉公出世双六　同作　同画

奥奉公出世双六　同作　同画

極上摺　撰百人一首　百枚揃　一陽齋豊國画　一勇齋國芳画

重榮御江戸繪圖　奉書四枚半續

端唄ナイ海の竹　小本上中下の三冊ふれ色ちがのたらさを　あつかるくしたれ　ものがたりしたるこのかぐさたり　をたらーてはうくるきたうこのかぐさたり

倭文庫十編

上

釋迦八相
倭文庫十編上

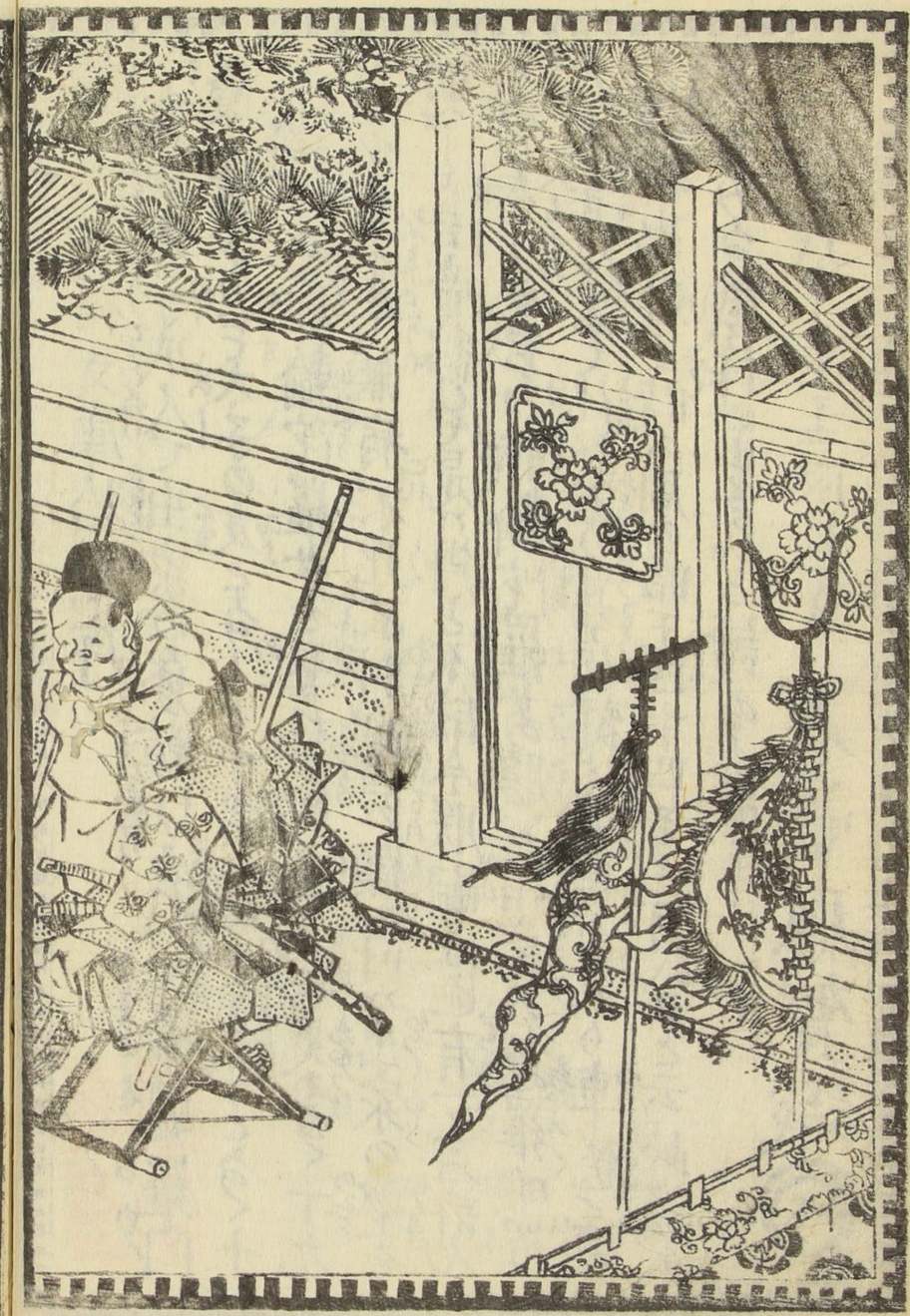
万亭應賀作
一陽齋豊國画

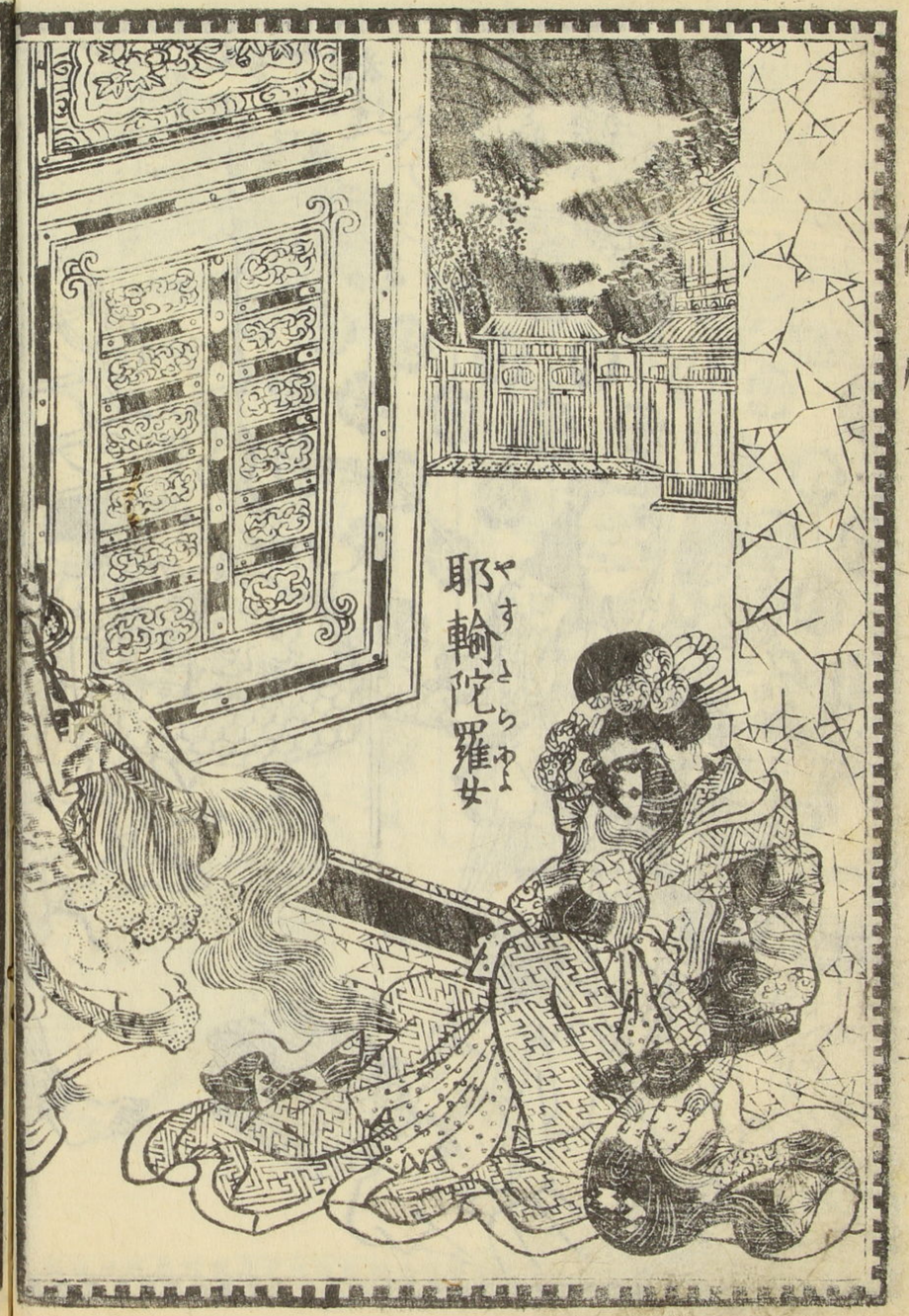
釋迦八相倭文庫拾編序

書曰大子成人て出家の發願切なれば父帝波斯匿王
優陀夷を召て大子の友とするとふられ諫えと止とるく十
七歳ゆて耶輸陀羅女を娶れど契室の念更おるく十九
歳ゆて不老・無病・不死・不別此四の願と叶ず出家の望を
切べしと云帝愁ひて是を得と不許今朕嗣子に有一子を計ん
とあり大子もまたち耶輸陀羅女の腹を借ざるべ怨羅睺羅
天ゆり寝没もて化託あり其夜犍陟の馬ふ乗り車匿と連
て檀特山へ赴く時ふ周の昭王四十四年二月八日と云此説ふ
異ふるみる戯作のまきびと讀のふ爲

弘化五戊申年孟陬發鬻　万亭應賀識

悉達太子
出家の望み頻り
城門の
角
厳重の
教言固とる




耶輸陀羅女

悉達太子
十九歳にして
懐妊の姫を
振捨車匿を
連て檀持山の
峯霊へ
面向ひ
悉達太子
舎人
車匿

佛法濫觴

中華ハ後漢明帝十年摩騰竺法蘭佛經ヲ將來日本ハ欽明帝十三年百濟國聖明王ヨリ佛像及ビ子卷の經論ヲ貢ス物部尾輿中臣鎌大臣ガ之ヲ廢ス

祭司馬達等來テ奉佛信ゼル人三十代

十月

欽明帝十三年壬申の歲冬

八年

聖徳太子ハ仏法ヲ信ジテ仏具ヲ難波の堀江ニ棄テ其後用明天皇の皇子聖徳太子ハ仏法ヲ廣大ニ弘メ給フ

凡例

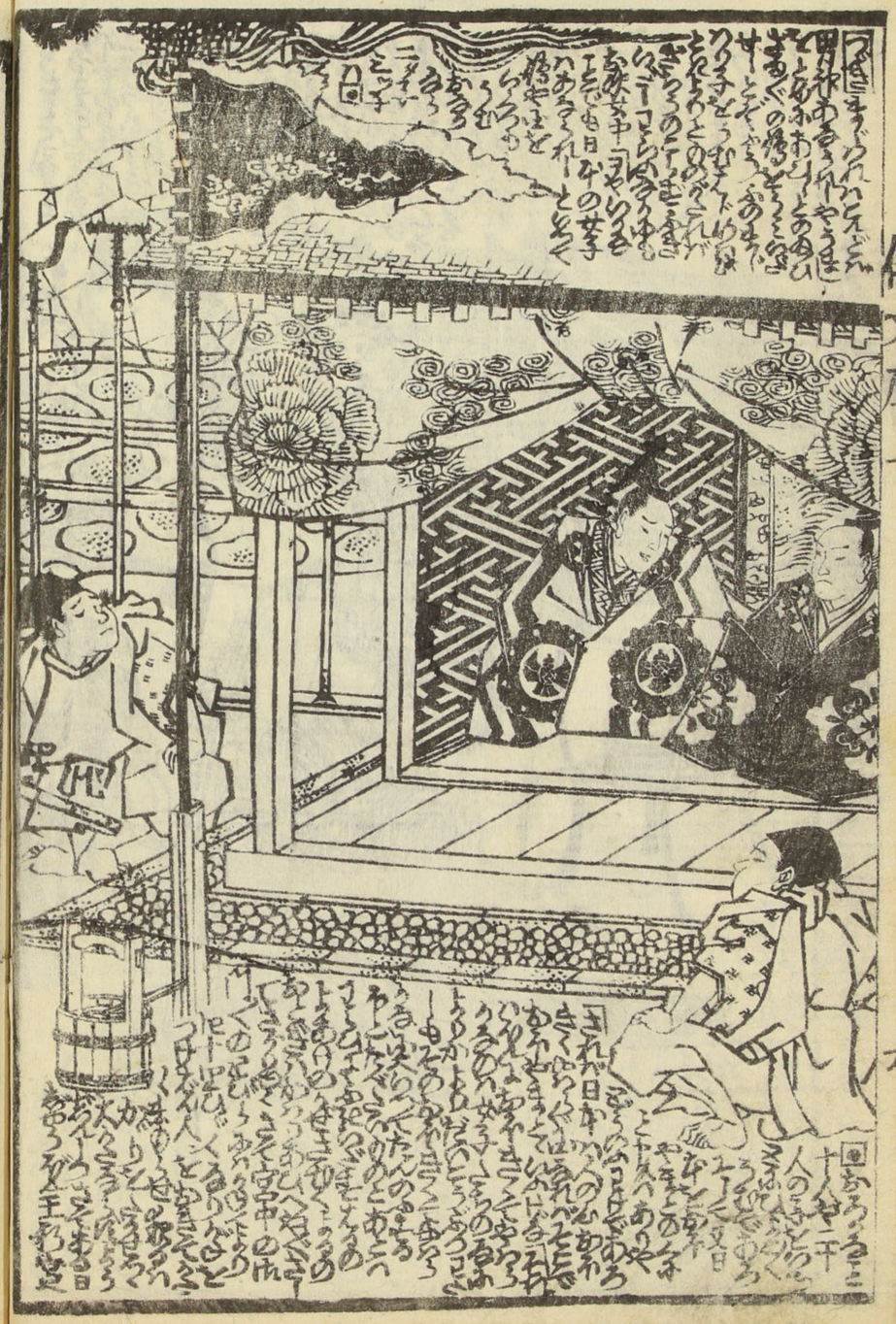
此さうしハ元より今様の人情ふつゝ孫さまこを倭文庫と題して已ニ初の巻ハ婆羅門の優陀夷を臣識ニ見せて又悉達九支ゆゑ願以此功徳の文を唱ふことてゝをそゝぐ

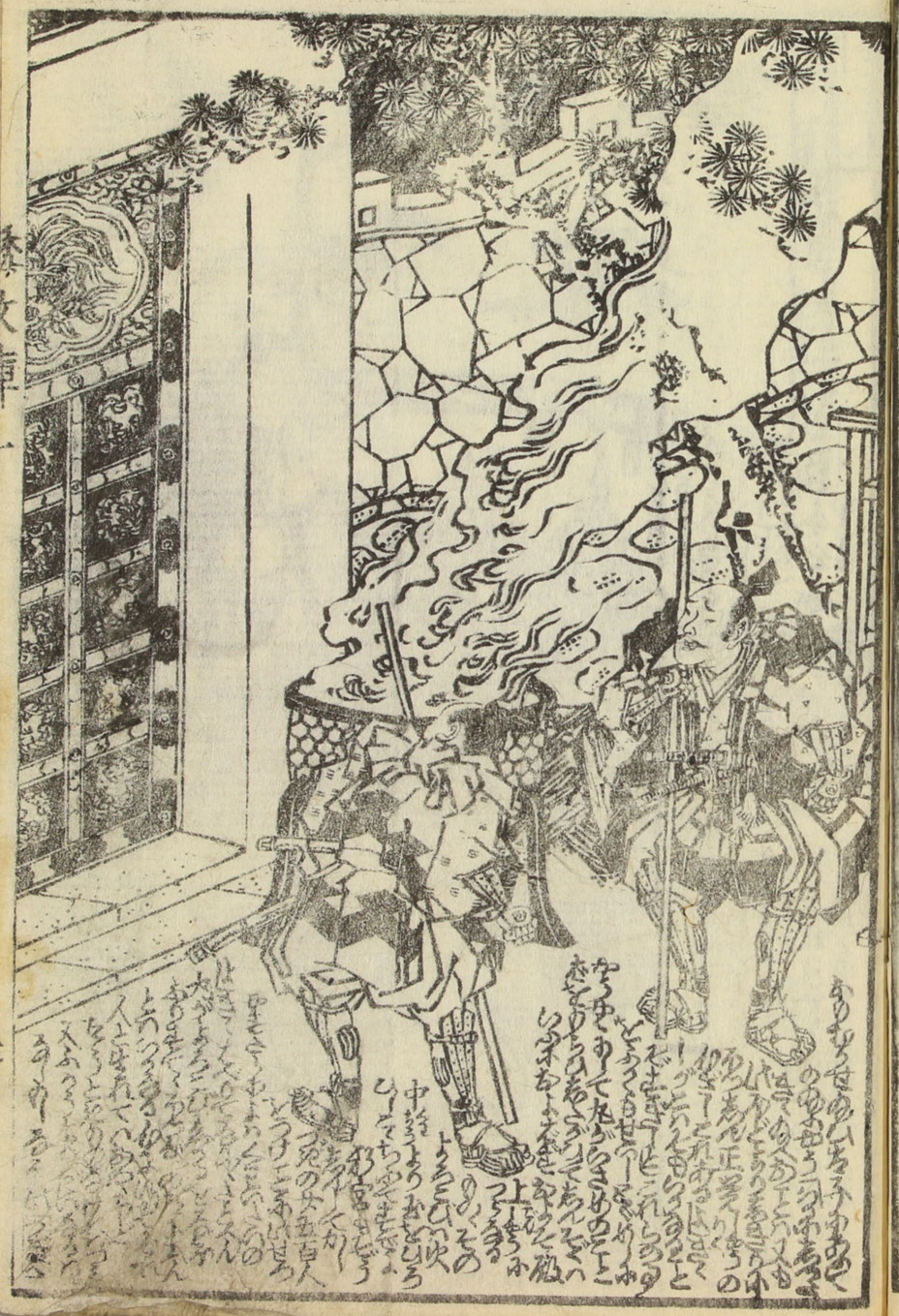
ども猶末すゑゆゑ挙てゝ〜〜扨太子前世ゆゑ八千度生まれ出るゆゑ中ゆゑ毘大王と生れ時ゆゑ鳩の〜〜ふ肉身をきり又薩埵王子と生れ時ハ飢ゑ虎ハ身をわどこを此たぐひの物がたりも末の巻ハうきくらゐ巻ハ前後の差別不合のもとゝもそのまゝ紀ごとハ都て初編より終冊まゝの拙き筆を俺せんこゝ茲ハあわまり〜く事ゝ

万亭應賀述

女

う





應賀作豐國画

安政四年丁巳春新板目録

俠文庫

重の井菱染別小紋　七編為永春水作　八編同　画

昔語小栗實説　二編松亭金水作　三編同　画

花山吹百人女郎　初編柳亭種彦作　二編同　画

大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續

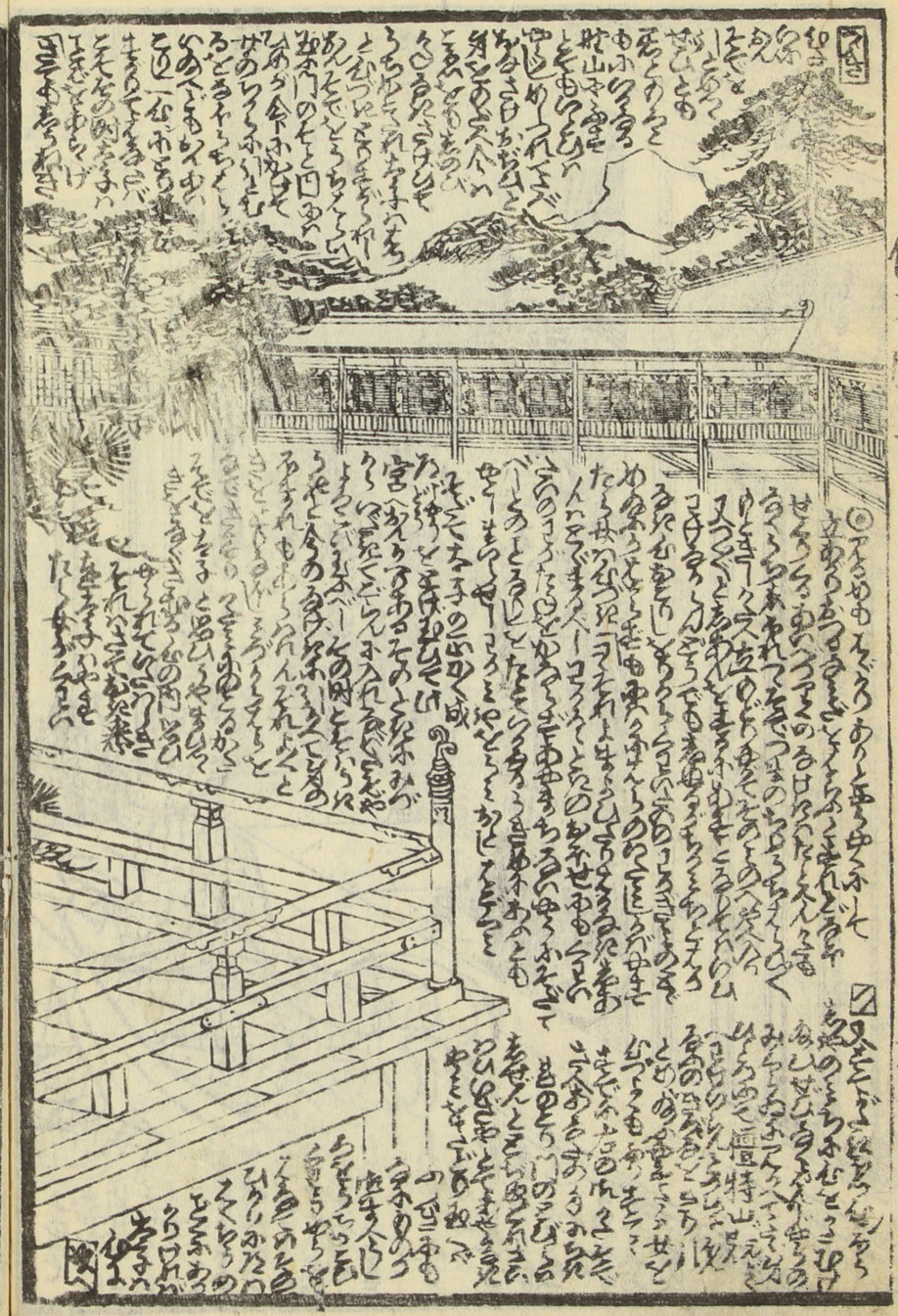
常磐津懐中本　初編　二編　三編　四編

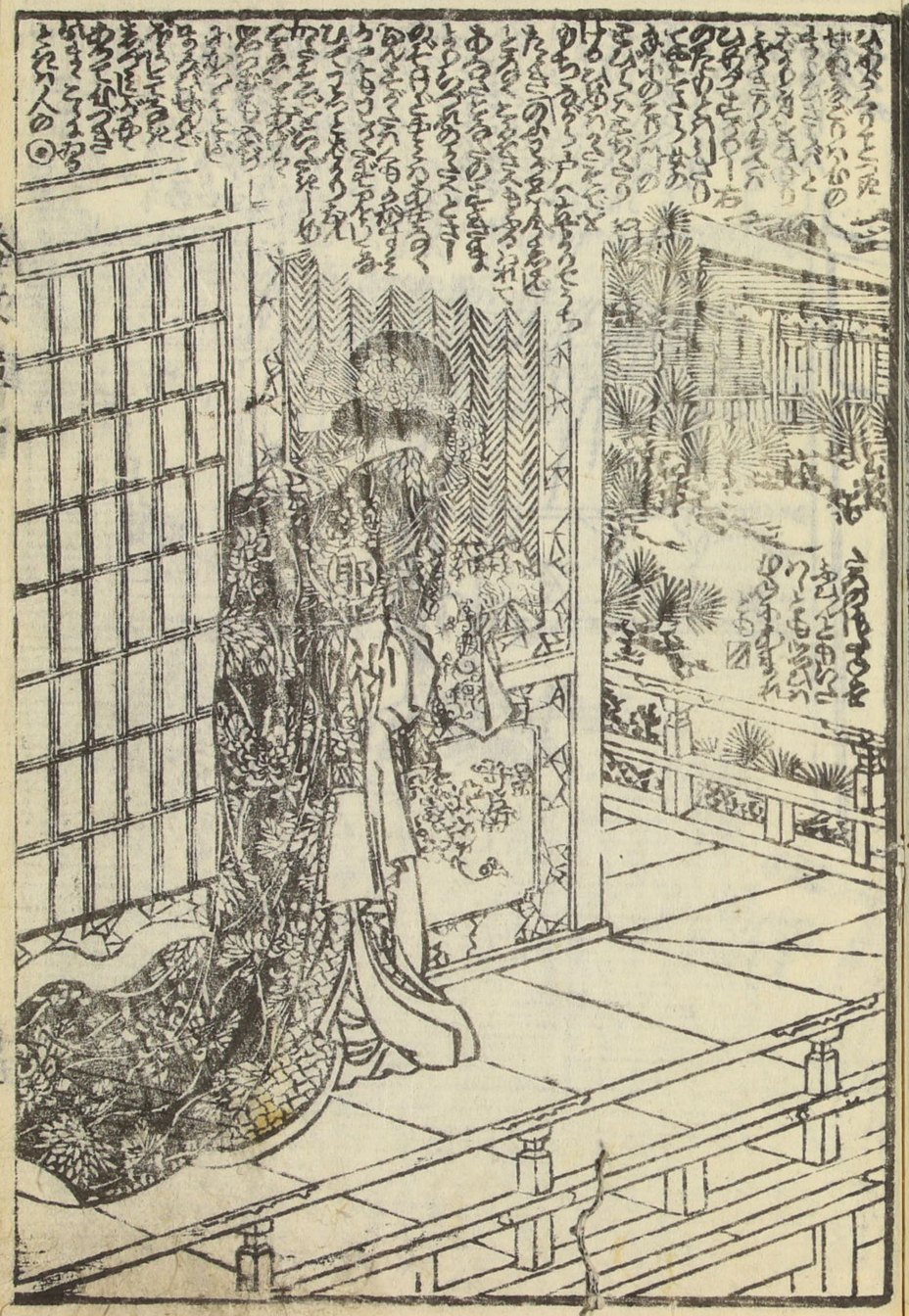
〈重　繪州紙本類　人形町　上州屋重藏

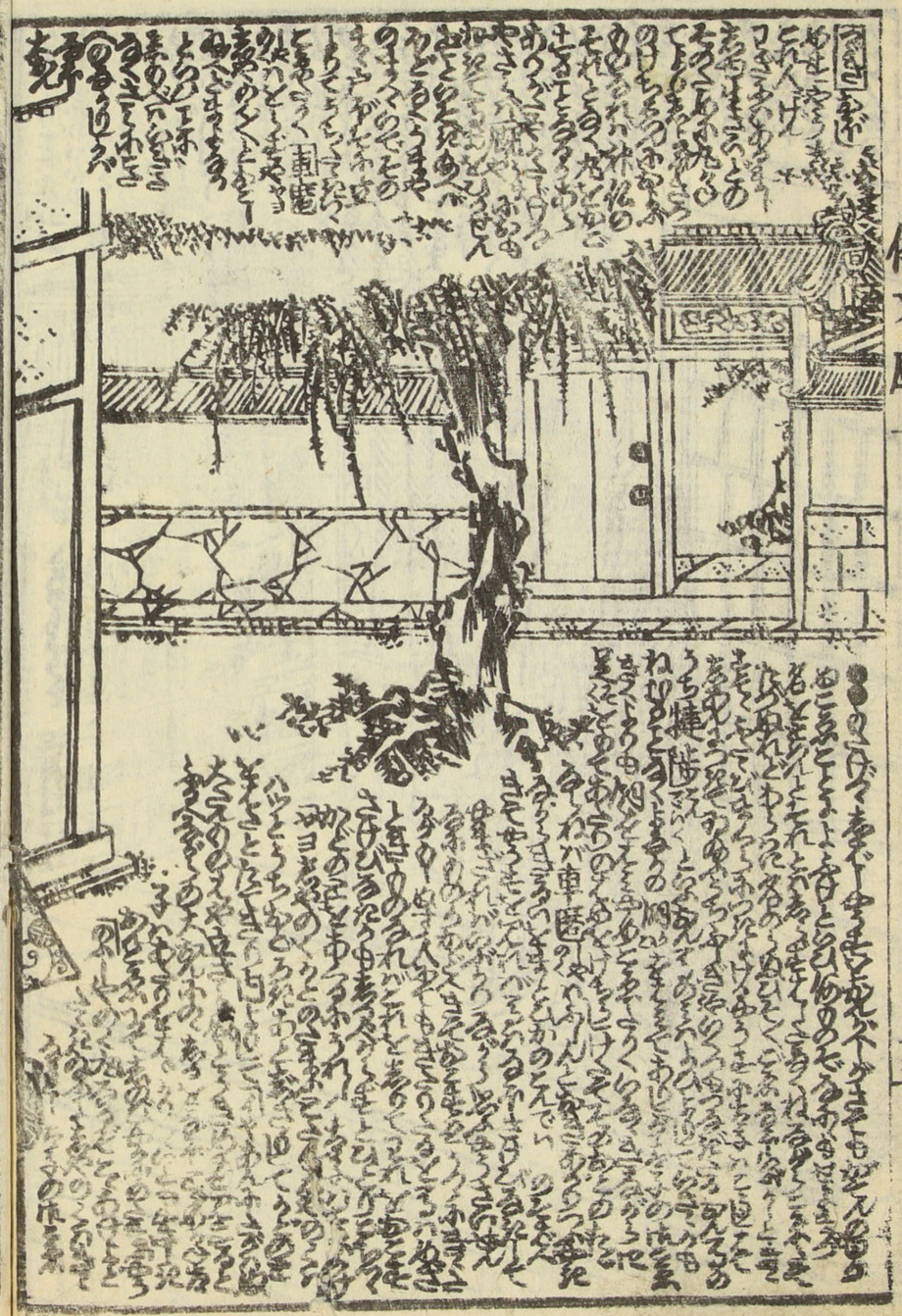
万亭應賀作
一陽齋豊國画
錦重堂板
下

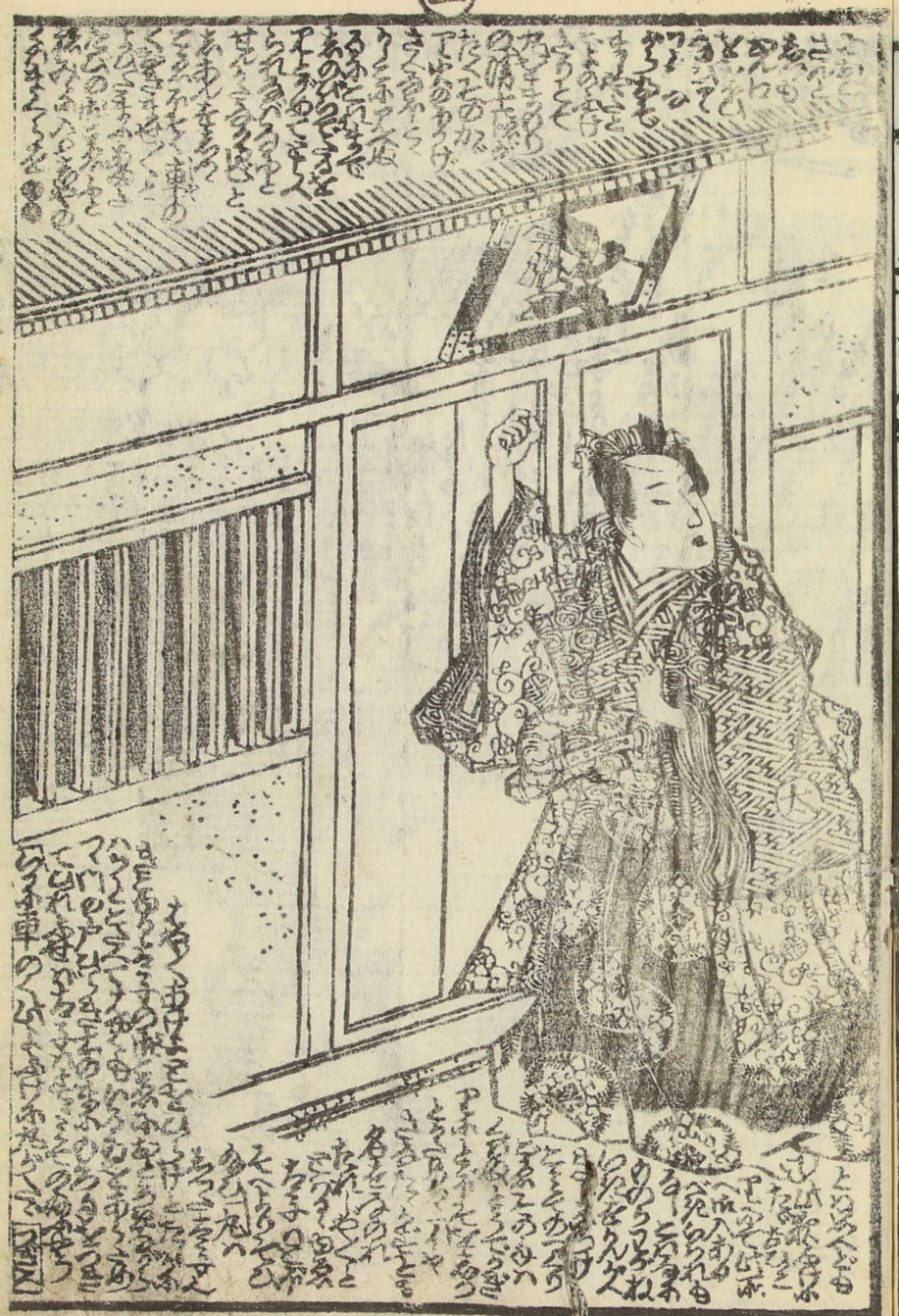
長崎名物
ぬれ衣
十編下
應賀作
豐國画
上州屋板
門人
改正
新刻

三









万亭應賀作

俠文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

春の手遊　将棋双六　同作　歌川貞房画

男女振合　役替双六（尚年のもんもん也）　同作　一陽齋豊國画

武家奉公出世双六　同作　同画

奥奉公出世双六　同作　同画

極上摺　擬百人一首　百枚揃　一陽齋豊國画　一勇齋國芳画

重榮御江戸繪圖　奉書四枚半續

端唄さゝ海の竹

本三布川奈數